

仁王門

仁王門を通る参拝者は、門の両脇を守る恐ろしい仁王の厳めしい睨みに耐えなければなりません。右側の那羅延は、あ、と声を上げるように口を開いており、左側の密迹はうんと言うように口を閉じています。これらの2つの音節は、サンスクリット語のアルファベットの最初と最後の文字の日本語読みであり、2つを合わせて全てのものの生と死を象徴しています。門の中には、通る者すべてを裁くかのように、地獄の王である閻魔大王の像と9人の裁判官が立っています。

仁王門は、山寺の境内の一番上までの中間地点です。1848年にケヤキ材を使って再建されており、この寺の最も新しい建築物の1つです。仁王像は、当時最も名高い仏師の1人であった運慶（1150年～1223年）の弟子の作品と考えられています。